

令和元年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [令和元年度資源評価](#) > ダイジェスト版

標準和名 ウマヅラハギ

学名 *Thamnaconus modestus*

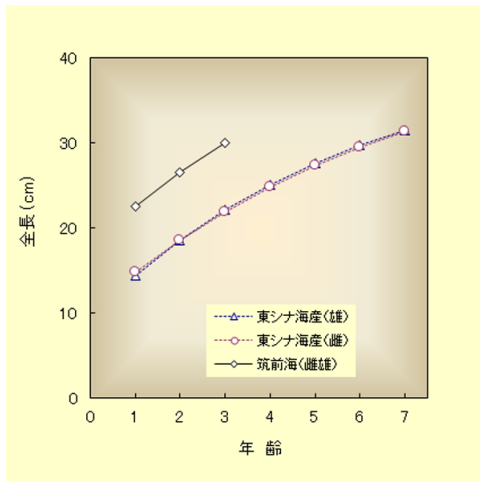
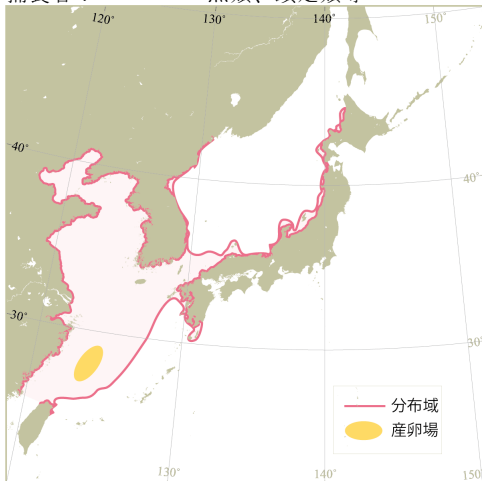
系群名 日本海・東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命： 10歳
成熟開始年齢： 筑前海で雌雄ともに1歳、新潟県沿岸の雌で1歳、東シナ海の雌で2歳
産卵期・産卵場： 東シナ海域では4～6月、日本沿岸では5～7月
食性： カイアシ類、貝類、エビ・カニ類、魚類、ヨコエビ類、ウニ類、ヒトデ類、ヒドロ虫類、鉢クラゲ類、石灰藻を含む紅藻類および珪藻類
捕食者： 魚類、頭足類等

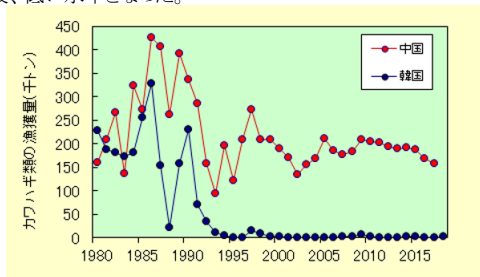
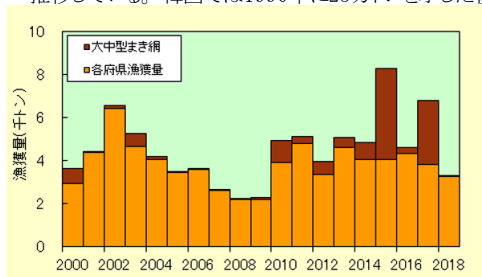


漁業の特徴

本種は北海道以南の我が国沿岸、東シナ海、黄海などに広く分布している。我が国の漁業の主体は定置網漁業で、刺網漁業や底びき網漁業でも漁獲されている。近年、大中型まき網漁業や沖合底びき網漁業でも、本種を対象とした操業が行われるようになっていく。本系群の分布の主体がある東シナ海では、中国と韓国が主に漁獲している。

漁獲の動向

漁獲統計が整備されていないため、各府県における水揚げ量(一部他のカワハギ類を含む)および大中型まき網による水揚げ量を集計し、本種の漁獲量とした。2018年は3,300トンであった。各府県漁獲量は2010年以降概ね4,000トン前後で推移し、2018年は3,200トンであった。中国と韓国のカワハギ類の漁獲量(ウマヅラハギが大半と考えられる)は最盛期(1986年)にはそれぞれ43万トン、33万トンであったが、その後減少し、中国では1992年以降20万トン前後で推移している。韓国では1990年に23万トンを示した後、低い水準となった。



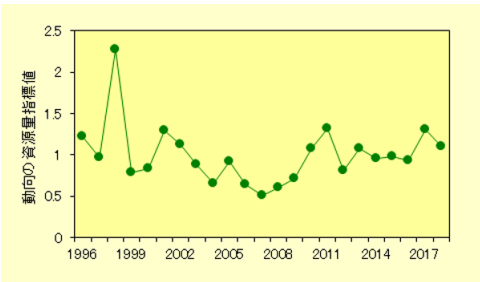
資源評価法

我が国沿岸では1960年代後半から各地で多量に出現するようになり積極的に利用されるようになったが、漁獲統計が整備されておらずウマヅラハギの長期的な漁獲量データが得られていない。そのため、長期的なデータが得られている中国・韓国のカワハギ類の漁獲量から、本系群の資源水準を判断した。現在の我が国の漁獲の主体が定置網漁業によるものであること、また定置網漁業が積極的に本種を狙って操業する漁業ではないことから、定置網漁業の単位努力量あたり漁獲量(CPUE)が資源動向を反映するものと考え、資源動向の判断にはCPUEの計算が可能な石川県における定置網漁業の標準化したCPUEを資源量指標値として用いた。

資源状態

長期的なデータが得られている中国・韓国によるカワハギ類の漁獲量は1992年以降低水準で推移していることから、分布の主体がある東シナ海における資源水準は低位にあると考えられるため、本系群の資源水準を低位と判断した。資源量指標値の最近5年間(2014～2018年)の動向から、資源動向を横ばいと判断した。





管理方策

現状より漁獲を抑制して我が国近海における資源を回復させることを管理目標とした。漁獲量を減じた上で資源量指標値の変動傾向に合わせて漁獲することを管理基準としてABCを算定した。本種は沿岸性の魚種と考えられ、我が国周辺海域に来遊した資源の管理および我が国周辺海域で再生産を行う産卵親魚の増大を図るためには、漁獲圧を削減することが望ましい。資源全体の資源評価および資源管理にあたっては関係各国の協力が不可欠である。

管理基準	Target/Limit	2020年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値 からの増減%)
0.7・Cave3-yr・1.07	Target	29	—	—
	Limit	37	—	—

- Limitは、管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量、Targetは、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、安全率 α を掛けた漁獲量
- ABC算定規則2-1)によって、ABCは $ABClimit = \delta_1 \cdot Cave3-yr \cdot \gamma_1$ 、 $ABCtarget = ABClimit \cdot \alpha$ とし、 α は標準値0.8を用いた
- 資源水準で決まる係数 δ_1 は、資源水準が低位のときの標準値0.7とした
- γ_1 は、 $\gamma_1 = 1 + k(b/I)$ で計算をし、kは係数(標準値の1)、b(0.08)と(1.12)は直近3年間(2016～2018年)の資源量指標値の傾きと平均値
- Cave-3yrは直近3年間2016～2018年における漁獲量の平均値

資源評価のまとめ

- 水準は低位、動向は横ばい

管理方策のまとめ

- 現状より漁獲を抑制して我が国近海における資源を回復させることを管理目標とした
- 漁獲量を減じた上で資源量指標値の変動傾向に合わせて漁獲することを管理基準としてABCを算定した
- 資源全体の資源評価および資源管理にあたっては関係各国の協力が不可欠である